

報道関係各位

2016年5月31日

新興国向け簡易式トイレ『SaTo』 累計使用台数100万台突破へ

事業拡大に向け専任組織を設置、2020年までに1億人の衛生環境改善が目標

株式会社 LIXIL グループ（本社：東京都千代田区、社長：藤森義明、以下 LIXIL グループ）は、当社が新興市場向けに展開する簡易式トイレ「SaTo[®]（Safe Toilet/安全なトイレ）」の累計使用台数が本年7月に100万台を突破する見込みであることを発表しました。

※特許取得済み

LIXIL グループは、「グローバルな衛生課題の解決」をコーポレート・レスポンスイリティ戦略の重要課題の一つとして掲げており、課題解決に向けた効果的なソリューションとして、「SaTo」の提供拡大を積極的に進めています。「SaTo」は、従来の汲み取り式トイレによって発生する悪臭や病気の伝染を防ぐことができ、公衆衛生の改善に貢献します。「SaTo」の初代モデルは、ビル&メリンダ・ゲイツ財団からの資金助成を受けて開発が進められ、2013年にバングラデシュにおいて1台あたり2ドル以下という低価格で販売されました。



現在、ケニア、ウガンダ、ルワンダ、ハイチ、フィリピン、インドを含む国々において、「SaTo」製品の販売や試験導入が行われており、世界で約500万人の人々の衛生環境の向上につながっています。

LIXIL グループは、「SaTo」をはじめとする革新的な製品の提供を通じて、2020年までに1億人の衛生環境を改善することを目指しています。この目標達成に向け、この度、水回り製品を扱う LIXIL Water Technology (LWT) 内に、「SaTo」の事業開発を担う専任組織を新たに立ち上げました。American Standard Brands で研究開発部門長を務め、「SaTo」の開発プロジェクトを主導した Jim McHale が、SaTo 事業開発統括責任者として当組織を指揮します。加えて、米国の American Standard Brands においてシニア・デザインエンジニアとして活躍し、「SaTo」初代モデルの共同開発者である石山大吾が、プロダクトデザインディレクターとして参画します。LIXIL グループは、「SaTo」製品の開発・展開を通じて培ったこれまでの実績を活用し、体制強化を図ることで、さらなるビジネス拡大を推進します。

LIXIL グループ COO の瀬戸欣哉のコメント

「水回り製品の分野で世界をリードする LIXIL グループは、衛生陶器に関する専門知識を活かし、新興国のニーズに応え、グローバルな衛生問題を解決する製品を生み出してきました。こうした取り組みを通じて、新興国市場向けのビジネスを拡充すると同時に、世界の衛生課題の解決に貢献できると考えています。グローバルなネットワークに加え、これまで培った実績と専門性を活かすことで、世界の公衆衛生の向上に向けて重要な役割を担っていく所存です」

LIXIL Water Technology の SaTo 事業開発統括責任者である Jim McHale のコメント

『SaTo』は、低価格で、簡単に設置ができるのが特長で、何百万という多くの人々に快適さを提供するとともに、病気の感染を減少させることができるという画期的な製品です。長期的な成長と収益を生み出すビジネスとして『SaTo』の事業化を実現し、世界中の人々に安全で衛生的な環境を提供できるよう、持続的な取り組みを推進してまいります」

< 「SaTo」の仕組み >



「SaTo」 洋風型（左）と和風型（右）

※コンクリートスラブの穴に設置でき、排水口に取り付けられた弁によって、排泄物からの臭気や、ハエなどの虫の進入を防ぐ仕組みになっている。